

税のおかげの「あたりまえ」

恵庭市立恵庭中学校 3年 高山 美心

「命の水、だけど命がけの水。」

これはあるCMの言葉だ。この言葉がずっと心に残っている。このCMは、南アメリカの少女が水をくむために危険な道を何往復も歩く。しかし、手に入れた水は死んでしまうかもしれない危険な水だという内容だ。命をつなぐために必要な水、しかしその水を飲むことにより死んでしまうかもしれない。あたり前にきれいな水を飲んでいる私たちには想像できない恐怖だと思う。

私は、このCMを見て世界の水衛生について調べてみた。そこでとても驚いた。世界では安全な水を手に入れられない人が約六億人いて、そのうち約一億四千万人が川や用水路の未処理の地表水を使用していたことが分かったのだ。しかも、その水が原因で毎日約八百人もの子どもが命を落としていることも分かったのだ。アフリカでは、水道どころか井戸も設置されていない地域もある。では、日本はどうだろうか。

日本では、あたりまえのように毎日安全できれいな水を使用することができる。なぜだろう。調べてみると、その理由の一つに税金があった。日本の水道の整備に税金が使われていたのだ。私は、このことを調べる前までは、税金がどのように使われているのか知らなかった。なので、こんなに身近な水道に使われていると知って、驚いた。アフリカには税金の制度が整っておらず、税金を集めることができない。なので、公共政策を充実させることができず、悲劇が毎日のように起こってしまうのだと思う。私たちが毎日、おいしい水を飲み、トイレを水で流せることができるのも税金のおかげだ。しかし、私たちはこの貴重な水を、「なくなることはない」と思って、無駄使いをたくさんしている。税金のおかげで、水道は成り立っているのに。もし、この無駄使いの水を溜めて、アフリカの人々に持っていったら、どんなに喜ばれるだろうか。私は、水は「税金のためで使えて、その水に困っている人もいる。」と考えて、大切に使うべきだと思う。

日本では、その他様々なことにも税金が使われている。あたりまえに水を使用できるように、あたりまえに教育を受けたり、公園を使用したりしている。でも、「税金のおかげだ。」と考えることはあまりない。これらの「あたりまえ」は税金の上で成り立っていて、この「あたりまえ」ができない人々も世界にたくさんいる。だからこそ、私たちは税金に感謝し、この税金で成り立っているものを大切に使うべきだと思う。